

平成29年12月25日

公益財団法人庭野平和財団

理事長 庭野 浩士 様

コード番号 : 16-A2-038

特定非営利法人さいたまユースサポートネット

青砥 祥子

平成29年度報告書

「貧困の中で生きる若者たちに対する支援、農業体験と協働の場づくり」

1. 団体および実施事業の紹介 (400文字程度で簡潔にご記入ください)

NPO法人さいたまユースサポートネットは2011年に設立以降、貧困と孤立で苦しむ若者たちを地域の方々との連携、多様な方法で支援してきました。

現在さいたま市から「さいたま市若者自立支援ルーム」、「さいたま市生活困窮者学習支援教室」、厚生労働省から「地域若者サポートステーションさいたま」、埼玉県教育委員会から埼玉県地域の多様な人のネットワークによる高校生自立支援事業の委託を受け、また独自事業である

「たまり場」を運営することで、生きづらさを抱えた若者たちのサポートを行っています。

貧困、不登校、引きこもり、虐待、精神疾患等の様々な困難を抱えた若者たちを社会から孤立させることなく、地域社会の中でコミュニティに参加しながら自立を目指すためには、長期の併走型の支援体制が地域社会に構築が必要であり、若者のその後の生活、就労、自立、コミュニティの形成まで見通した支援が必要であると考え、頂いた助成で今回野菜作りを中心とした就業体験、若者たちの協働体験を目的にした支援活動と居場所づくりの事業を実施いたしました。

2. 社会に伝えたい成果や課題 (600文字程度で簡潔にご記入ください)

当団体では、子ども・若者への支援対策は、地域の居場所づくりから始める必要があり、地域を基盤にし、日常生活から就労までつらぬいた自立や若者たちのコミュニティを地域につくるところまで見通した支援が必要であると考え、これまで活動を行ってきました。

虐待、精神疾患、貧困、引きこもり等の困難を抱えた若者たちが、社会で孤立することなく、メンターとしての多様な大人とのかかわりを持ち、地域社会で自立を目指すために、私たちは2011年から「たまり場」と名付けた居場所づくりを運営しています。

「たまり場」は、主に「交流」と「学び直し」の2つの活動から成っています。10代の若者からシニアまで毎回50名近くのメンバーが利用者と支援者の垣根を超えて共に活動し、自身の生きがいや役割、社会性、生きる意欲を見出して新しい日々へ一歩を踏み出しています。

この活動を通して、私たちは今後の支援には、困難を抱えた子ども・若者たちが同じような課題を抱えた仲間や学生を中心としたボランティアと交流し、協働することを通して、社会性を獲得することが、自立への第一歩であると考えています。

若者たちが、仲間と一緒に野菜作りをすることは、コミュニケーションのスキルを身に着け、社会性を獲得できる最も優れた活動の一つであると考え、今後は、更なる就農の機会、協働の場を設ける活動を行っていきたいと考えております。

以上